

3. 「産官学連携力」をつける

3.1. 日赤なみえ保健室での原発災害被災者支援活動

2015年7月～9月の14日間

福島県いわき市「なみえ交流館」内「日赤なみえ保健室」

日赤なみえ保健室は、日本赤十字社、日本赤十字看護大学と浪江町が共同して実施している支援事業で、東京電力福島第一原子力発電所事故によりいわき市に避難を余儀なくされている浪江町の方々への健康と安否の把握、健康保持・増進支援、コミュニティ再生支援等の活動を自治会等浪江町民とともに行っており、その活動は約3年に及びます。

【学生の学び】

小林千紘（2015年入学）

私たち日赤のDNGL学生は、毎年長期休暇を利用して、福島県いわき市の日赤なみえ保健室でのインターンシップを行ってきました。私たちはまず、なみえ保健室に来られる住民の方の声に耳を傾け住民の方々の状況を理解することに努めました。そして、支援スタッフとともに戸別訪問調査を行ったり、町民の方々と一緒にサロン活動に参加したり、加えて、なみえ保健室の行動マニュアルの改訂や、支援ニーズの変化に見合う訪問調査用紙の修正、地域住民の方同士の交流や憩いの場の提供を目的としたイベントの企画・実行など、運営の一部にも携わる機会をいただきました。これらの経験から、長期にわたり1つの場所で支援を継続する事の意義と困難さ、コミュニティ再生支援の意味と課題を実感しました。今後、広い視野で災害看護を捉えリーダーシップを発揮する事を目指す私たちDNGL学生にとって大切な学びとなっています。

